

# 報 告 書

令和3年7月26日

座間市議会議長

吉 田 義 人 殿

議会 I C T 推 進 検 討 委 員 会

委員長 内 藤 幸 男

議会 I C T 推 進 検 討 委 員 会 で 委 員 を 派 遣 し ま し た 事 務 調 査 に つ い て 、 別 紙 の と お り 復 命 が あ り ま し た の で 報 告 し ま す 。

# 復 命 書

令和3年7月26日

座間市議会議長

吉 田 義 人 殿

議会ICT推進検討委員会

委員長	内 藤 幸 男
副委員長	美濃口 集
委員	守 谷 浩 一
委員	須 崎 友 康
委員	加 藤 学
委員	荻 原 健 司

次のとおり報告します。

- 1 視察日 令和3年5月17日（月）
- 2 視察先 茨城県取手市（オンライン）
- 3 視察項目 タブレット端末の導入、活用方法について
- 4 概要 別紙のとおり

令和3年5月21日

座間市議会議長

吉田 義人 殿

議会ICT推進検討委員会委員長

内藤 幸男

#### 視察所感

タブレット端末の導入、活用方法について

今回の視察では、座間市議会では初めてとなるオンラインを活用しながら、茨城県取手市の取組をお伺いさせていただきました。

取手市は、タブレット端末の導入やオンライン会議など、議会のICT化を先進的に進めている自治体であり、今年度、タブレット端末の導入に向かって取り組んでいる私たちからすると大変素晴らしい機会をいただけたことにまずは感謝申し上げます。

当日は取手市議会事務局の次長をはじめ、齋藤議長や多くの議員にもご参加いただき、事務局側、議会側双方の意見を聞くことができました。

ペーパーレスについては、導入後一斉に紙資料の配布をやめ、年間4万枚の削減につながったということであり、さらにはご高齢の議員にも事務局が丁寧なサポートをすることで不便はほとんど出なかったというお話でした。私どももタブレット端末の導入目的のひとつにペーパーレスを掲げています。先日はペーパーレスに必要なオンライン会議システム「モアノート」そして今回は、「サイドブックス」の説明もいただき、こういったシステムを活用するとともに、まずはチャレンジしてみることが重要だと感じました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、議会が止まってしまった自治体や制限されてしまった自治体があるとも伺っています。しかしながら、感染症拡大や大規模災害など有事の際ほど、議会の役割は重要になります。市民の暮らしや命を守るためにも議会はいかなる場合にも止めてはなりません。そのためにも議会のICT化はスピード感を持って取り組んでいかなければならない課題である感じています。

今回、座間市議会から多くの質問を提出させていただき、一つ一つ丁寧にお答えいただきました。私自身もより理解を深めることができましたし、参加した多くの議員も考えがクリアになったと思います。今後、今回の研修の内容をいかして座間市のICT化が前進するよう取り組んでいきたいと思っています。

令和3年6月18日

座間市議会議長

吉田 義人 殿

議会ICT推進検討委員会副委員長

美濃口 集

## 視察所感

タブレット端末の導入、活用方法について

オンライン視察を取手市議会の皆様のご協力で実施し、取手市議会議長をはじめとした議員の皆様、議会事務局から貴重なお話を伺い、意見交換をさせていただきました。

初めにタブレット端末の導入について、取手市議会においては議会運営委員会で議論を重ねた上でタブレット導入を決定したそうだが、基本的には新しいものは取り組んでみようと思う前向きな姿勢が取手市議会にはあるとお話しをいただいた。事務局側のサポート体制もあり、混乱はなく導入できたとのことだが、座間市において導入を検討していく上では基礎知識の向上は必須であると考えている。

また、取手市議会の年齢幅は30代から70代の広い年齢幅であるが、議員一人一人のリテラシーの高さも非常に驚くものがあり、私よりもICT機器の活用に優れていると実感した。視察中に事務局側から「習うより慣れろ」との言葉があり、その言葉通りの実績が出ていると痛感した。

実際にペーパーレス化を実現できているのかという問いに対しても、議会事務局に置いてあるコピー機は有料であり、ほとんど使わないというお話しをお伺いし、タブレット端末を導入することで利便性の向上とペーパーレス化を同軸で進めていることは非常にすばらしいと感じた。さらに私が視察中に特に感じたのが、座間市議会の視察中の机の上は紙が散乱していたが、取手市議会の机の上にはほとんど紙がなく、メモも紙にとっていないことが印象的でタブレット端末活用が進んでいることが見受けられた。

最後に端末のWi-Fi環境についてもWi-Fiモデルを使用していると思っていたが、LTEや有線を使用していることは驚きであったが、話を聞く中で有事の時などを考えるとWi-FiモデルよりもLTEの方がよく、現場視察の際にも全員で行く必要がなくなるため、中継をすることで効率的だと感じた。上記のことから学ぶことはたくさんあり、座間市議会のタブレット端末導入において生かしていきたいと考える。

2021年6月2日

座間市議会議長

吉田義人 殿

議会ICT推進検討委員

守谷浩一

## 視察所感

タブレット端末の導入、活用方法について

ウェブ会議のツールである「Zoom」を使ったオンラインでの視察という方法は初めてだったが、音声も画像も問題なくスムーズに進行できてよかったと思う。

取手市議会の議会事務局の方や、議会運営委員会の市議メンバーが詳しく説明されていて、とても分かりやすかった。

タブレット端末の導入の経緯で当初は、取手市議会でペーパーレスを目的にタブレット端末を導入しようとしていた。その後、電子採決システムの更新が必要になり、表決システムがあるファイル共有システムを活用することと合わせてタブレット端末を導入したとのことだった。結果的にペーパーレスや、議会事務局の資料準備の負担軽減につながったとのことだった。

タブレット端末の導入後には、新型コロナウイルス感染症の影響があつて、オンライン議会を実施したとのこと。オンライン会議システムを活用して委員会を開催し、質疑の途中に関連する現場を動画撮影してタブレット端末で共有するなどの使い方は便利だと感じた。

また、災害訓練でもタブレット端末を活用して、議員の安否確認や、地域で被害があった場所の画像を撮影して共有するなど、いろいろな取り組みがされていることに驚いた。

取組を進めた背景に、「試してみてダメだったときは元に戻せばいい」という考え方が共有されているということで、このことにも驚いた。

タブレット端末の導入に関して多くの資料もいただいた。取手市議会タブレット端末運用規程が特に参考になった。座間市議会でも、よりよいものが導入できるよう、そしてしっかり活用できるよう、様々な観点から考える必要があると感じた。

令和3年6月20日

座間市議会議長

吉田 義人 殿

議会ICT推進検討委員

須崎 友康

## 視察所感

タブレット端末の導入、活用方法について

今回、視察した取手市議会では、議会活動のオンライン化を進めるために、タブレット端末を導入している。その導入の背景は、新型コロナウイルスによって、複数人が同じ場所で対面して会うことが困難になってしまった状況があったという。

私もやはり、今回の新型コロナウイルスや災害時などでも、議員が緊急的に集まり、現状の把握と今後の方針を決める必要があることから、ある程度の議会活動のオンライン化は必要だと感じた。

タブレット端末導入のメリットはほかにもあるという。それが「ペーパーレス化」だ。取手市議会では、今まで紙に印刷し議員に配布していた資料の約99%をデータ化し、それをオンラインで共有することで年間約4万枚の紙を削減できたという。さらに、議会事務局が議員24名の資料を印刷する業務を軽減でき、その他の業務に専念できたという。以上のことから、コストの削減と業務の軽減というメリットがあることが分かった。

しかし、私は資料をデータ化したとしても、今まで紙の資料を見ることに慣れている方が大多数ということから、結局、議員自身が紙を印刷することで、議会としてペーパーレス化に成功しても市全体としてのペーパーレス化には繋がらないのではないかと危惧していた。そこを取手市議会議員に質問したところ、「印刷する場面は人に資料を渡すときや、添削する時のみで、ほとんど印刷はしない」という回答が返ってきたことで、私の心配は薄まった。

結論として、タブレット端末を導入することで得られる効果は以下のとおりである。

- 1 災害などの緊急時の情報共有、素早い対策に役立つ
- 2 資源・コスト・業務の軽減

最後に、オンラインによって、より多くの人と瞬時に会話することができるメリットはあるが、その一方で人間関係が希薄になるおそれがあるため、オンラインとオフライン活動のバランスを考える必要があると感じた。

令和3年5月18日

座間市議会議長

吉田 義人 殿

議会ICT推進検討委員

加藤 学

## 視察所感

タブレット端末の導入、活用方法について

今回の視察は多くのメリットを持つタブレット端末の導入が、実際に紙を主流とする議会において、どのようにタブレットに移行していったのか、その際の問題点や課題を明らかにすることを主眼に置いての視察であった。

取手市のタブレット端末の導入は平成25年頃よりICT検討委員会を立ち上げて種々検討したが、結局は紙から離れる不安を拭いさることができなかったとのことであった。しかし、昨年来のコロナ禍において、議場に全員が入れない状況で議会を進めたり、期間を短縮したりするのを見て「新しい議会改革を進めるべき、できることはあるはず」と一気に踏み込んだとのことであった。急な方向転換でさぞかし混乱があったものと聞いたが、「初めこそ紙の議案書とタブレットとの並立でのスタートであったが、2回目の議会からはペーパーレスを徹底した」とのことであった。機器の取扱いが不慣れ、データの置き場所が分からない等の困難をどのよう乗り越えたかとの問いに「コロナ禍ではほかに選択肢がなく、不慣れや紙のない不安は慣れるしかない」と割り切った答えが返ってきたのは、むしろ、コロナ禍であったからこそできたという所感を持った。タブレット端末の面白い使い方として、リモートによる現場確認があった。これは職員が議員に代わり現場にタブレット端末を持ち込み、体育館の床の破損状況をレポートしており、時間の短縮と現場の様子がよく分かる素晴らしいものであった。

コピー用紙のコストダウン、印刷、コピー、製本、配布に関する経費のコストカットもさることながら、職員の業務負担を大幅に削減して、新たな行政サービスに取り組むことができるということは大きなメリットだと感じる。新しい価値観が求められる時代においてタブレット端末の導入はペーパーレスのみならず、より市民に寄り添う行政サービスを生み出すことになるとの所感を持った。

令和3年6月21日

座間市議会議長

吉田 義人 殿

議会ICT推進検討委員

荻原 健司

#### 視察所感

タブレット端末の導入、活用方法について

これまでの「議会改革特別委員会」や「議会ICT推進検討委員会」においても、継続して求めてきた表題について、過去には様々な外的要因や、議員におけるICTへの認識不足、拒絶反応などもあり、導入には至らなかったと感じてきたものとして、今回の取手市議会の取組を学ぶ機会を得られたということは、率直に歓迎するものである。

また、「習うより慣れろ」というご発言は、まさにそのとおりであると感じるところであり、かねてから地方の農家のご高齢者によるICTへの取組や、零細企業における発注機会を得るためのICT化などを例に挙げ、タブレット導入を求めていたものの一人として、様々な要因が解消された点についても、率直に歓迎するものである。

圧倒的シェアを持つとのことであった「サイドブックス」が望ましいと判断するものであるが、委員会での議論でさらなる理解が深まるよう期待する。

余談となるが、タブレット導入によるメリットとして語られることの多いペーパーレス化について、紙の使用量の減少ということだけでなく、環境負荷軽減への取組としてもCO2排出削減効果としても期待できる、というよりなさねばならない取組であるという主張をこれまでもしてきたが、今回、導入を実現できれば、後世への責任をまた一つ果たすことにつながるという点からも、大いに歓迎するところである。

以上